

第 18 回市立中学校のあり方検討委員会 会議録（概要）

- 1 日時 令和 6 年 3 月 19 日（火）午後 6 時 30 分～午後 7 時 00 分
- 2 会場 千手中央コミュニティセンター 千年の森ホール
- 3 出席者

(1) 委 員 17 名

(2) 事務局 7 名 渡辺教育長、鈴木教育文化部長、玉村教育総務課長、細木学校教育課長、藤田指導管理主事、山岸教育総務課長補佐、小野塚教育施設係長

- 4 会議概要
- (1) 開会あいさつ（雲尾委員長）
- (2) 提言の最終確認

発言者	発言概要
①提言内容の確認	
委員長	（提言の修正内容について説明） （質問等なし）
②提言の最終確認	
委員長	（提言提出について最終確認） （異議なし）

- (3) 提言の提出

発言者	発言概要
委員長	十日町市立中学校のあり方についての提言。十日町市立中学校のあり方検討委員会では、十日町市の中学校の現状や多様化する社会情勢を踏まえた上で、将来を担う子どもたちがふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きていくための環境整備や充実した学校教育の実現についての審議を重ね、提言をとりまとめた。別冊『より良い十日町市立中学校の創造と実現のために』のとおり十日町市立中学校のあり方について提言する。
委員長	ただいま提言を提出させていただいた。皆さん、審議ありがとうございました。本日で第 18 回。一昨年 の 11 月から非常に長い間にわたり審議を重ねてきた。その中で、各委員からああいう資料が欲しい、こういう資料が欲しい、こういうことについてどうだ、という形で提案がされ、それを事務局が用意し、またそれについて議論をして、ということ積み重ねての提言となっている。これは、そういう意味で各委員の考えの結晶でもあると思う。これをどうしていくかは、さらに各委員が各地域の中でも協力し合いながら話を進

め、より良い十日町市の中学校のあり方、あるいはこれからの十日町市をどうしていくかというところにまで大きく広がっていくことになると思う。ほぼ1年半の審議の成果をぜひ生かしていただきたいと思うし、私もこれから先も協力できることは協力させていただきたいと思う。1年半、大変お疲れさまでした。

副委員長 これは、25人の検討メンバーが創り上げた提言だと思っている。ただ、これは提言であって、これを基、土台にして十日町市の中学校のあり方を地域で話し合い、地域の考え方を決めていくということをやっていかななくてはならない。そのために、様々な意見をこの中に入れてあることも確か。どうやったら地域できちんと話し合いができるか、各委員からもう一度お骨折りをいただければ大変ありがたい。この地域の大事な子どもたちを、どうやったら15歳までここ十日町市で学び、最終的に素晴らしい子どもたちに育てていくためにどうしたらいいかという考え方を地域全体で持っていただければありがたい。そのためにこの1年半、頑張っていたが、もう少し各委員からご尽力をお願いしたい。これまで眠たい夜に集まり、様々な話し合いを重ねてこの提言書ができた。感謝を申し上げながら、もうしばらくご尽力をいただければと思っている。ありがとうございました。

教育長 ただ今、委員長より提言書を手渡しいただいた。委員長をはじめ副委員長、そして委員の皆様、本当に熱心にいろんな角度から検討いただき、疑問点をお互いに出し合い、次のステップをどうするかを考えて、何度も何度も内容確認、検討を重ねて、視察、グループ討議、ワークショップを行い、文章化し、再確認し、そしてまたそれを整理していく。一言一句、本当に真剣に吟味して完成した提言書。本当に皆様の思いが詰まった珠玉の提言書だなと改めて感じた。当初予定していた回数は15回。これが18回になったのは、皆様が真摯に、熱心に、課題に取り組んだ結果と受け止めている。今日頂戴したこの提言書は、実際の重さ以上にとてもとても重いもの。次のステップであるロードマップづくりに向けて、改めて内容をしっかりと理解し、教育委員会内部、市長部局、市議会、そして地域の皆様、市民の皆様と内容を共有して理解した上で、次のステップに進んでいきたいと思っている。その際のこれが羅針盤、バイブル。本当に素晴らしい提言をありがとうございます。

- (4) その他 なし
- (5) 閉 会